

イエス・キリストの地上再臨

2026年8月2日

イザヤ書	34章1～7節
	63章1～6節
ハバクク書	3章3節
ミカ書	2章12～13節
ゼカリヤ書	12章7節
ヨハネの黙示録	19章11～18節

序：ハルマゲドンの戦いは八段階で行われる

- ①反キリストと同盟軍がハルマゲドン（イズレエル平原）に召集
- ②バビロンの崩壊・滅亡（反キリストの支配する統一国家、首都）
- ③エルサレムの崩壊
- ④ボツラにいるイスラエル人を反キリストとその軍隊が攻撃
- ⑤イスラエルの国家的回心（悔い改めとメシアへの信仰、嘆願）
- ★⑥キリストの地上再臨
- ⑦ボツラ～ヨシャパテの谷（エルサレム）までの戦い
- ⑧勝利の主、オリーブ山に立つ

I. キリストの地上再臨の目的と前提条件

(1)目的：イスラエルの残りの民の救い
 $\frac{1}{3}$ ゼカリヤ 13・8～9

(2)前提条件

- ①イスラエル人の国家的・民族的罪の告白（メシアを拒絶）
- ②イスラエルのメシア再臨を嘆願する祈り

II. イスラエルはメシアを信じなかった罪を悔い改め、主に来臨を懇願した

- ①最後の3日間：2日間で国家的・民族的な背信の罪を告白
3日目に救出を求めて、再臨を嘆願して主に祈る
∴彼らは反キリストの軍勢に包囲されている

②嘆願に応じて、主は戻って来られる

III. 再臨の場所はオリーブ山（エルサレム）ではなくボツラ（ペトラ）

①ユダヤ人のうちの残りの民はボツラに避難していた（エルサレムを去って）

②エルサレムを壊滅に追い込んだ反キリストと諸国の連合軍は、残りの民を追って
ボツラに向かい、包囲した イスラエルは絶望状態の中で主に叫び求めた

(1)イザヤ書 34章1～7節

主は諸国の軍勢を滅ぼす

1～2節①主は諸国に向かって怒り、すべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶、虐殺した

4節②天の万象は崩れ落ちる

5、6節③主の剣は血が染み込み、血で満ちている（ボツラでの主 vs 反キリストの軍）

場所：エドムさらに焦点はボツラ

(2)イザヤ書 63章1～6節 イザヤと再臨のメシアの対話

- 1,2節①ボツラから真紅のの衣をまとって来る方（敵の返り血のため）は再臨の主
エドムから、ボツラから来る者
装いには威光、大いなる力をもって進んでくる方
正義をもって語り、救いをもたらす大いなる者
エドムの地、ボツラでの激しい戦いの痕跡＝血塗られた衣（酒槽踏みのよう）

3,5節②主はひとりで戦われた

天使の軍勢なし、教会時代の聖徒たちも加わっていない
主はだれの助けも必要とされなかった

3,6節③主の怒り、憤りによって、踏みつけ、踏み潰し、流血の惨事に至らせた

(3)ハバクク書 3章3節

- ①3章はテーマが再臨
②テマン、パランの山は同じセイル山、ボツラに近い
ボツラからエルサレムに向かって数km
∴再臨の地はボツラ

(4)ミカ書2章12～13節

- ①イスラエルの残りの民の避難場所：ボツラ＝「羊のおり」の意
②セイル山脈の中、エドムの一部（今日のヨルダン）
③打ち破る者、王、主＝メシア
メシアがイスラエルの残りの者を救出する

Ⅳ. ゼカリヤ書 12章7節

主は初めに、ユダの天幕を救われる。それはダビデの家の栄と、エルサレムの住民の栄えとが、ユダ以上に大きくならないためである。

- ①再臨された主はまずユダの天幕を救う
ボツラで避難生活
②次にエルサレムの住民を救う

ボツラで始まった戦いはエルサレムの東、ヨシャパテの谷まで続く⇒来週

Ⅴ. 結び

(1)メシアはイスラエルの悔い改めと嘆願に応じて速やかに再臨なさる。

(2)再臨される場所は、ユダが避難・仮住まいしていたボツラである。エルサレムは後で救う

(3)メシアは一人でこの戦いを戦う 圧倒的勝利をおさめる